

平成28年度 NIE 実践報告

与論町立与論中学校

1 はじめに

本校は、鹿児島県の最南端である与論島に位置し、生徒165名（H29.1月現在）の学校である。平成26年度より日本新聞協会よりNIEの実践指定を受けて研究に取り組み、今年度はその3年目にあたる。これまで行ってきた実践を継続しながら、少しずつ新しい活動も取り入れた。

2 取組の実際

(1) NIE 掲示板

昨年度に開設したNIEの掲示板を活用し、新聞のスクラップ活動を行っている。年間を通して活動を行ったが、昨年度から取組を継続している2・3年生だけではなく、1年生も徐々に新聞記事の読み方や適切な記事の見つけ方に慣れることができたように感じた。また、掲示板の前に立ち止まってスクラップを見ている生徒も多く、友だちの名前や記事に反応している様子がみられた。



【NIE 掲示板】



【新聞記事スクラップの様子】

(2) 新聞を活用した授業の実施

国語科の授業において、生徒の表現力育成を目的として、インタビュー記事を作成する活動を行った。文学的文章の登場人物の心情を読み取り、新聞を参考にインタビュー記事を書く活動は、文章を読み取る（理解する）能力及び書く能力を伸ばす上で重要である。書くことを苦手としている生徒が多いため、参考とする例を多く提示することも意識的に行った。そうすることで、全く書き出すこともできない、という生徒は見られなかった。その後、グループで作品の交流を行うことで、他者の考えや書き方を学び自分の表現に生かすとともに、自分の作品への感想を参考に事後に生かしていくことができたようである。



【活動の様子】

(3)「若い目」への作文投稿

NIE 実践の1つとして、南日本新聞ひろばコーナーの「若い目」への投稿に取り組んできた。新聞に自分の記事が掲載されることは、生徒たちの自信につながっている。

【掲載された記事抜粋】

仲間との協力学んだ
与論中1年
池田 鈴海
集団宿泊学習がありました。中学校で初めての大きな行事です。その中で勉強になることが、たくさんありました。

集団行動は、自分の思い通りにしないことや、がまんしなければならぬことも多くあり、一人の自分の

仕事を楽しくしている
与論中1年
池田 和代
初めてテレビ会議を利用した職業インタビューがあり、与論にはない職業の人に質問することができました。

インタビューを受けてくれた人たちは、みんな生き生きしていました。それは楽しんで仕事をしているからだと思いました。私も働

勝手な行動がみんなに迷惑をかけます。仲間と協力することの大切さ、それ学べたことが一番の収穫になりました。

そろそろ中学校生活にも慣れてきたところで、この宿泊学習を行うことができてよかったです。また気持ちを引き締めて頑張りたいです。

一番の思い出はカレー作りです。私は食事係で、入る食材を切る担当でしたが、火おこし係の手伝いも

ときには、仕事をしたいです。

多くの人が、これからの目標を持つことも意外でした。大人になったら具体的な目標を持つことが大切だということを教わりました。私も将来に向けて、しっかり目標を立てて頑張っていきたいです。

こうした機会が持てたのも、多くの人の協力があったおかげです。日々、周りの支えや協力があるおかげで、自分たちの生活が成り立っていると改めて感じました。恩返しができるようになりたいです。

南日本新聞 28年6月8日付 (与論町)

↑平成28年12月27日付

体育大会で成長した
与論中1年
鶴田 小春
体育大会で成長できたと思うことは、ピンチを乗り越えられたことです。私は今回、色別対抗リレーの補欠になりました。

当日、選手が休んだときに走る役目です。絶対休まないから大丈夫だろうと思っていました。当日選手が病気で休んでしまいました。仕方がないこと

とだと思っただけで、足があまり速い方ではない私は、すごく緊張して嫌でした。

しかし、走るしかない状況だったので、思い切って走りました。走り終わってみると、すごくほっとして、走ってよかったと思いました。

ピンチを乗り越えてあまり出ることのない競技に出られて、後から考えてみるととてもいい経験でした。

来年も、体育大会で成長した自分を感じられるように頑張りたいです。

南日本新聞 28年10月8日付 (与論町)

みんなで協力して頑張った。

みんな協力して頑張った。とつても暑くて、全身黒焦げになりそうでした。

おいしかったです。

(与論町)

平成28年6月8日付 ↑

(4) テレビ会議システムを用いた職業インタビュー

本校では、キャリア教育の一環として総合的な学習の時間に「職業インタビュー」を第1学年時に取り組んでいた。しかし、立地条件等を考慮すると、島内にある限られた職業についてしか調べることができず、将来島外に出て自分がどんな職業に就くか考えるための材料が少ないことが課題であった。そこで、本年度は、南日本新聞社の協力を得て、水族館職員や鹿児島ユナイテッドFCの選手、南日本新聞記者、大学教授、ホテルの料理人という5つの多岐にわたる職業に就く方々にお話をうかがうことができた。テレビ会議システムを使った職業インタビューは、実際に顔を見られ、その場で直接インタビューができるという利点があった。また、生徒の感想を見ても、「自分の将来について考えるきっかけができた」「貴重な体験ができた」と感じている生徒も多かったため、可能であれば実践を続けていきたい。

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

- 新聞を購読している家庭が少なく、新聞記事を読むことが少ない現状にある生徒たちが、新聞に触れる機会や新聞に興味を持つきっかけ作りになった。
- 新聞記事を読み、それに対する自分の意見や考えをまとめる作業を定期的に行うことで表現力向上につながった。
- 互いにスクラップ記事等を読み合い意見を交流することで、多様な考え方に触れることができた。
- 新聞を授業で活用することの有用性や必要性を実感できた。
- 職業インタビューを島外にいらっしゃる方々を相手に行えたのは非常に効果的な活動となり、生徒たちの印象にも強く残っていた。いつかは島立ちをするという意識が生徒たちの中にはあるものの、世の中にどんな職業があるのか分からない、という生徒も多くいる。より早い段階で様々な職業の価値観に触れることができたため、自分の将来について真剣に見つめることができたようであった。

(2) 今後の課題

- 学校全体に NIE の取組を広げることが難しかった。一部の教員や授業の中でのみの活動となってしまうことが課題である。学校全体や教育活動全体で取り組む雰囲気ができるようにしていきたい。
- ほとんどの実践が教員主体の活動になってしまったため、生徒の自主的な活動の幅を広げられるようにすることも課題である。自分たちでどのような活動に取り組みたいかについて考えさせられるようにしていきたい。
- 学校内だけではなく、保護者や家族と行う NIE の活動も広げていきたい。
- これまで取り組んできた活動を継続して実践していくだけでなく、情報交換を行い、より効果的な実践をしていきたい。